

平成20年度

有害赤潮プランクトン等監視調査事業報告書－Ⅲ

—— 貝毒発生監視調査 ——

平成21年3月

長崎県総合水産試験場

目 次

はしがき

I 調査の概要

- 1. 目的..... 1
- 2. 調査水域..... 1
- 3. 調査期間等..... 1
- 4. 調査対象貝類..... 1
- 5. 調査項目および調査方法..... 2
 - (1) 環境調査..... 2
 - (2) プランクトン調査..... 2
 - (3) 貝毒調査..... 2
- 6. 調査実施機関および担当者..... 2

II 調査結果

- 1. 水質..... 3
- 2. プランクトン..... 3
- 3. 貝毒..... 3

III 考察

- 1. プランクトン..... 4
- 2. 貝毒..... 4

IV 要約..... 6

V 今後の課題..... 6

調査結果、付表..... 7

近年、本邦各地において、特定プランクトンの捕食によるとみられるホタテガイ、ヒオウギガイ、アサリ、カキ等二枚貝の毒化現象がみられ、食品としての安全性の確保や漁業経営の安定を図る上から、毒化現象の究明が要請されている。

本県においても、養殖二枚貝、特にヒオウギガイの毒化に対処するため、水産庁の補助事業として、ヒオウギガイの貝毒検査と毒化原因プランクトンの出現状況を調査したので、その結果を報告する。

また、本報告書には、長崎県が別に実施したモニタリングの結果も記載した。

なお、試料の採取に協力された対馬の美津島町漁協および美津島町西海漁協、県南の橘湾東部漁協の方々に厚くお礼申し上げます。

I 調査の概要

1. 目的

長崎県沿岸水域の養殖ヒオウギガイについて、毒化の実態と毒化プランクトンの出現を定期的に調査し、貝毒監視体制の確立を図り、安全出荷対策に資する。

2. 調査水域

養殖ヒオウギガイの主産地である対馬（三浦湾：寺島地先、浅茅湾：辺田島＜黒瀬＞地先）と県南（橘湾：南串山地先）の2水域に3定点を選定した（図1）。

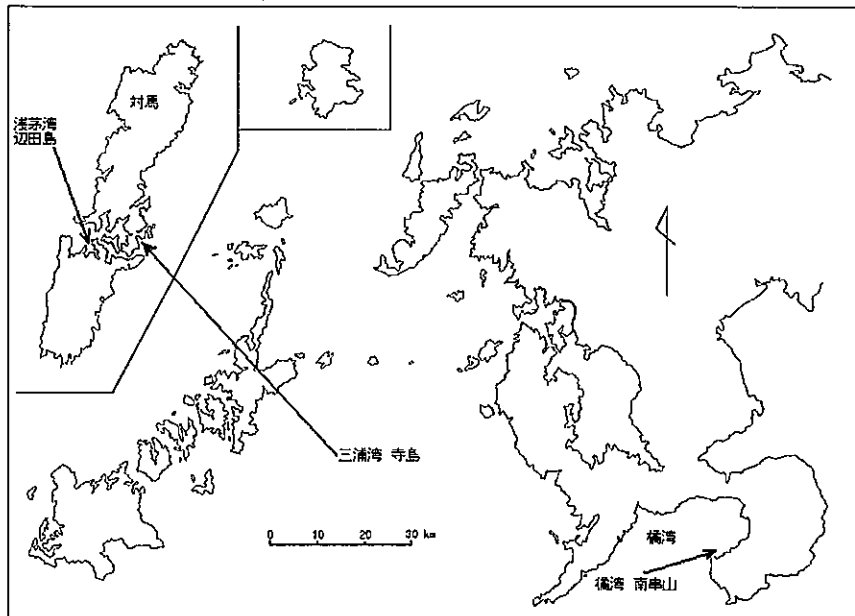


図1 平成20年度 貝毒モニタリング調査定点図

3. 調査期間等

調査は、環境調査および麻ひ性貝毒検査を平成20年4月～平成21年3月の12回、下痢性貝毒検査を6月と10月の2回実施した（表1）。このうち、7月、8月、10月、2月の麻ひ性貝毒検査、10月の下痢性貝毒検査については食の安全・安心確保交付金により実施した。

表1 調査回数および調査検体数（網掛けは交付金により実施）

調査水域	調査内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
対馬	環境調査	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	麻ひ性貝毒検査	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	下痢性貝毒検査	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0
南串山	環境調査	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	麻ひ性貝毒検査	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	下痢性貝毒検査	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0

4. 調査対象貝類

調査対象種は、主として対馬と県南で養殖が行われているヒオウギガイ *Chlamys nobilis* (Reeve)とした。平成20年度の美津島町及び南串山町の養殖ヒオウギガイの販売数量は、約18万枚であった。

5. 調査項目および調査方法

(1) 環境調査

図1の定点において、検体採取時に透明度と養殖ヒオウギガイ垂下水深（2m層）の水温および塩分の測定を行った。

(2) プラクトン調査

ヒオウギガイの検体採取と同時に垂下水深の2m層の海水を1L採取し、採取後3日以内に孔径8.0μmのフィルターにより自然ろ過濃縮し、その全量について*Gymnodinium catenatum*、*Alexandrium* 属、*Dinophysis* 属の計数を行った。また、濃縮前の海水1mLについて優占種の計数を行った。

(3) 貝毒調査

供試貝は、あらかじめ殻長、殻高、体重、むき身重量等を測定してから速やかに凍結し、検査機関に送付して、貝毒の検査に供した。貝毒の検査は、ヒオウギガイの中腸腺を含む可食部全体を検体として、検査を委託した財団法人日本冷凍食品検査協会福岡検査所において、麻痺性及び下痢性貝毒を検査した。

なお、検査方法は「食品衛生検査指針 理化学編」（1991年厚生省生活衛生局監修、社団法人日本食品衛生協会発行）に定める方法による。

6. 調査実施機関および担当者

長崎県水産部水産振興課	係	長	笠田 八生
長崎県総合水産試験場			
環境養殖技術開発センター	所	長	安元 進
			漁場環境科長 平野 慶二
			主任研究員 山砥 稔文
			主任研究員 北原 茂
			主任研究員 水田 浩二

II 調査結果

1. 水質

水温、塩分および透明度の調査結果を付表1に示した。

(1) 水温

養殖ヒオウギガイの垂下水深である2m層の水温は、寺島で13.5～26.1℃、辺田島で14.1～27.7℃、南串山で9.2～28.6℃であった。

(2) 塩分

2m層の塩分は、寺島で31.87～34.10、辺田島で31.51～34.09、南串山で29.76～33.58であった。

(3) 透明度

透明度は寺島で7.0～10.5 m、辺田島で8.0～12.5m、南串山で5.0～13.0mであった。

2. プランクトン

Alexandrium 属、*Dinophysis* 属及び*Gymnodinium catenatum*の出現細胞数を付表2に、その他の出現植物プランクトン細胞数を付表2-2に示す。

(1) *Alexandrium* 属

A. catenella : 3定点ともに出現しなかった。

A. tamarence : 3定点ともに出現しなかった。

(2) *Dinophysis* 属

D. fortii : 3定点ともに出現しなかった。

D. acuminata : 3定点ともに出現しなかった。

D. caudata : 3定点ともに出現しなかった。

(3) *Gymnodinium catenatum*

G. catenatum : 辺田島で8/26に30 cells/L、10/27に29 cells/L、12/18に8 cells/L出現した。寺島、南串山では出現しなかった。

3. 貝毒

麻痺性および下痢性貝毒の検査結果を付表1に示した。

(1) 麻痺性貝毒

寺島で6/23と7/23にそれぞれ2.3 MU/g[可食部]、辺田島で9/24に2.8 MU/g[可食部]、10/27に2.1 MU/g[可食部] 検出された。南串山では検出されなかった。

(2) 下痢性貝毒

3定点ともに検出されなかった。

Ⅲ 考 察

1. プランクトン

平成20年度における貝毒プランクトンの出現時の水温および塩分は次のとおりである。

(1) 麻ひ性貝毒原因種

A. catenella : 出現しなかった。過去の出現水温範囲は、12.1～28.8℃である(図2)。

A. tamarense : 出現しなかった。昭和57年以降、出現は確認されていない。

G. catenatum : 出現時の水温は、辺田島で18.4～27.3℃であった(図3)。過去の出現水温範囲は、14.2～24.9℃であり、本年度の出現は既往値内で確認された。出現時塩分は、辺田島で31.51～33.83であった。

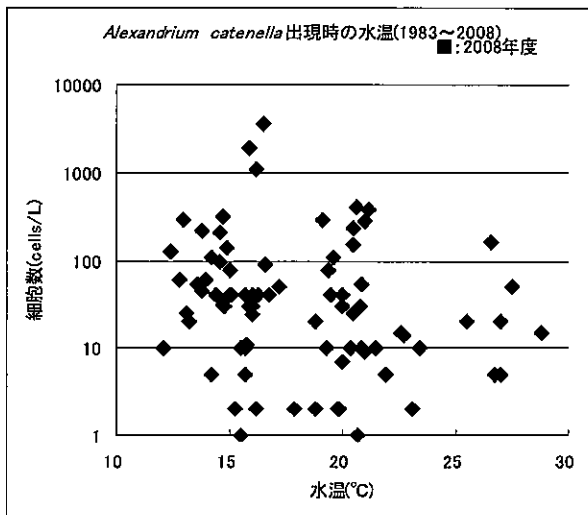


図2

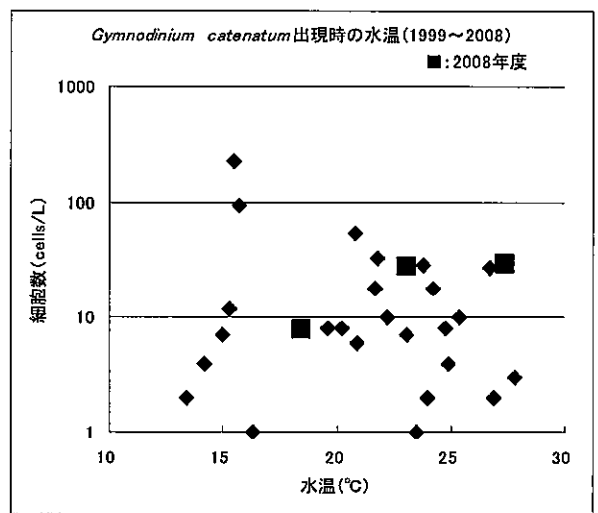


図3

(2) 下痢性貝毒原因種

D. fortii : 出現しなかった。

D. acuminata : 出現しなかった。

D. caudata : 出現しなかった。

2. 貝毒

(1) 麻ひ性貝毒

寺島で6/23と7/23にそれぞれ2.3 MU/g [可食部]、辺田島で9/24に2.8 MU/g [可食部]、10/27に2.1 MU/g [可食部] 検出された。

1) 対馬-浅茅湾 (辺田島)

本水域における過去の漁場ごとの最高値は、辺田島14.3MU/g、大平浦35.3MU/g、吹崎17.9MU/gを記録している。平成10～15年度は検出されなかったが、平成16年度(平成17年2月)に2.0MU/g、平成17年度も11月、2月に2.0MU/g [可食部]が検出された。浅茅湾において、養殖ヒオウギガイの麻ひ性貝毒化は昭和57～62年頃は冬季から春先を中心に高くなる傾向であり、63年以降は周年化、長期化し、特に平成元年度は夏季の方が高くなった。平成3年度は冬季春季の毒化に戻ったが4年度は秋季中心であった。平成5～8年度では再び冬季が高めと従来の傾向を示している。平成9年度に散発的に検出されたが規制値を超えることはなかった

た。

本年度は麻ひ性貝毒原因プランクトンの*G. catenatum*が出現しなかった9/24には2.8 MU/g[可食部]が検出されたが、10/27に29 cells/L確認された時には、2.1 MU/g[可食部]が検出された。また、12/18に8 cells/L確認された時には毒化がみられなかった。

2)対馬－三浦湾（寺島）

本水域では過去に大仏島で35.1MU/gの高毒化を記録しているが、平成9年度以降貝毒は検出されていなかったが、本年度は6/23と7/23にそれぞれ2.3 MU/g[可食部]が検出されたが、貝毒原因プランクトンは確認されなかった。

3)県南－橘湾（南串山）

平成17年度は麻ひ性貝毒が10月～3月に2.2～6.6MU/g[可食部]検出され、11/22に出荷自主規制値である4.0MU/g[可食部]を超える6.6MU/g[可食部]が検出されて、平成3年以降初めて出荷自主規制となった。本年度は麻ひ性貝毒、麻ひ性貝毒原因プランクトンとも確認されなかった。

(2) 下痢性貝毒

平成20年度は下痢性貝毒、下痢性貝毒原因プランクトンとも確認されなかった。

IV 要約

1. 養殖ヒオウギガイの主産地である対馬（三浦湾：寺島地先、浅茅湾：辺田島地先）と県南（橘湾：南串山地先）の2水域3地点において、環境調査および麻ひ性貝毒検査を平成20年4月～3月の12回、下痢性貝毒検査を6月と10月の2回実施した。このうち、7月、8月、10月、2月の麻ひ性貝毒検査、6月の下痢性貝毒検査については食の安全・安心確保交付金により実施した。
2. 平成20年度は、麻ひ性貝毒は寺島で6/23と7/23にそれぞれ2.3 MU/g[可食部]、辺田島で9/24に2.8 MU/g[可食部]、10/27に2.1 MU/g[可食部] 検出された。下痢性貝毒は、3地点ともに検出されなかった。
3. 麻ひ性貝毒の原因種とされている*G. catenatum*は、辺田島で8/26に30 cells/L、10/27に29 cells/L、12/18に8 cells/L出現した。*A. catenella*は出現しなかった。また、下痢性貝毒の原因種は出現しなかった。

V 今後の課題

今後も、貝毒原因プランクトンの出現数と毒化との関係をより明らかにするため、情報をさらに蓄積する必要がある。

付表1-1 平成20年度 貝毒成分等モニタリング結果

観測機関 対馬水産業普及指導センター

分析試料:ヒオウギガイ

検査機関 財団法人 日本冷凍食品検査協会

No.	年月日	地点	水深 (m)	水温 (°C)	塩分	透明度 (m)	個体数	殻長 (cm)		殻高 (cm)		殻付重量 (g)		可食部 重量 (g)	検査年月日	麻心性貝毒 (MU/g:可食部)	下痢性貝毒 (MU/g:可食部)	備考
								最大	最小	最大	最小	最大	最小					
1	4/18		8.7	15.4	33.94	8.7+	10	8.9	7.8	8.9	8.2	132.2	98.0	436.6	H20.4.22 ~ 22	検出せず	-	
2	5/14		9.7	17.2	34.19	7.5	10	8.3	7.6	8.7	7.9	109.0	106.1	423.5	H20.5.16 ~ 16	検出せず	-	
3	6/23		11.2	20.6	33.23	9.0	17	9.0	7.3	9.1	7.7	128.3	72.2	675.6	H20.6.26 ~ 27	2.3	検出せず	
4	7/23		10.2	26.1	32.41	8.0	8	10.5	8.1	10.4	8.6	192.0	119.3	410.2	H20.7.28 ~ 28	2.3	-	
5	8/26		9.8	25.5	31.87	7.0	7	8.7	8.3	9.2	8.4	141.5	114.3	324.1	H20.8.28 ~ 28	検出せず	-	
6	9/24	寺島	9.8	26.1	32.93	7.5	7	9.0	8.4	9.4	8.9	130.3	102.9	303.5	H20.9.26 ~ 26	検出せず	-	
7	10/27		9.4	22.1	33.01	8.0	15	9.1	7.8	9.3	8.0	141.1	99.8	609.8	H20.10.30 ~ 4	検出せず	検出せず	
8	11/26		9.8	19.3	33.44	9.8+	10	8.3	8.0	8.8	8.3	101.9	96.8	410.9	H20.11.28 ~ 28	検出せず	-	
9	12/18		10.5	16.8	33.66	10.5+	8	8.8	8.2	9.0	8.5	126.9	111.0	353.7	H20.12.22 ~ 25	検出せず	-	
10	1/27		10.0	13.5	34.10	9.5	8	8.6	7.9	8.9	8.5	139.7	95.4	357.5	H21.1.29 ~ 29	検出せず	-	
11	2/18		10.3	14.2	34.08	9.5	8	9.0	7.8	9.1	8.1	139.1	102.4	377.5	H21.2.20 ~ 23	検出せず	-	
12	3/26		10.2	14.9	34.12	9.0	10	8.1	7.3	8.3	7.6	101.3	95.7	393.9	H21.3.30 ~ 31	検出せず	-	

No.	年月日	地点	水深 (m)	水温 (°C)	塩分	透明度 (m)	個体数	殻長 (cm)		殻高 (cm)		殻付重量 (g)		可食部 重量 (g)	検査年月日	麻心性貝毒 (MU/g:可食部)	下痢性貝毒 (MU/g:可食部)	備考
								最大	最小	最大	最小	最大	最小					
1	4/15		33.0	15.6	34.02	9.8	13	7.5	6.6	7.6	6.8	72.3	61.7	323.0	H20.4.22 ~ 22	検出せず	-	
2	5/14		32.1	17.7	33.93	8.0	13	7.8	7.2	8.3	7.5	93.1	76.2	408.9	H20.5.16 ~ 16	検出せず	-	
3	6/23		32.5	21.3	33.04	9.5	21	7.9	7.3	8.4	7.1	100.3	79.1	616.7	H20.6.26 ~ 27	検出せず	検出せず	
4	7/23		32.5	27.7	32.12	8.5	10	8.1	7.4	8.7	7.6	98.5	87.3	309.0	H20.7.28 ~ 28	検出せず	-	
5	8/26		32.0	27.3	31.51	9.5	10	8.8	7.8	9.2	8.1	112.5	104.2	359.3	H20.8.28 ~ 28	検出せず	-	
6	9/24	辺田島	31.8	26.0	31.52	11.0	10	8.1	7.6	8.4	7.9	103.4	99.7	323.3	H20.9.26 ~ 26	2.8	-	
7	10/27		32.8	23.0	33.06	8.5	20	8.4	7.7	8.9	7.7	105.7	95.7	706.4	H20.10.30 ~ 4	2.1	検出せず	
8	11/26		33.1	19.6	33.46	11.0	10	8.4	7.8	8.7	8.0	115.3	95.6	386.4	H20.11.28 ~ 28	検出せず	-	
9	12/18		31.9	18.4	33.83	12.5	10	8.3	7.2	8.4	7.6	117.9	79.9	365.9	H20.12.22 ~ 29	検出せず	-	
10	1/27		33.3	14.4	34.09	12.5	8	9.0	7.8	9.1	8.3	129.9	113.3	386.1	H21.1.29 ~ 29	検出せず	-	
11	2/18		32.7	14.1	33.93	9.0	8	9.5	8.0	9.3	8.3	145.6	102.5	403.1	H21.2.20 ~ 23	検出せず	-	
12	3/26		32.4	13.9	33.40	7.5	8	8.9	7.8	9.1	8.3	122.2	121.5	386.8	H21.3.30 ~ 31	検出せず	-	

No.	年月日	地点	水深 (m)	水温 (°C)	塩分	透明度 (m)	個体数	殻長 (cm)		殻高 (cm)		殻付重量 (g)		可食部 重量 (g)	検査年月日	麻心性貝毒 (MU/g:可食部)	下痢性貝毒 (MU/g:可食部)	備考
								最大	最小	最大	最小	最大	最小					
1	4/9		21.8	14.9	33.69	9.0	15	9.0	8.1	8.7	7.7	135.0	87.0	550.0	H20.4.10 ~ 10	検出せず	-	
2	5/7		18.1	18.2	33.67	7.5	11	84.5	63.2	86.3	67.1	101.0	43.0	368.0	H20.5.9 ~ 9	検出せず	-	
3	6/4		21.9	20.2	33.5	9.0	20	75.4	62.2	81.9	66.4	77.2	46.5	474.4	H20.6.5 ~ 6	検出せず	検出せず	
4	7/2		18.4	23.0	31.02	5.0		94.2	75.4	95.2	77.2	138.0	74.7		H20.7.3 ~ 3	検出せず	-	
5	8/6		20.6	28.6	32.23	6.5	10	85.7	67.2	89.4	73.0	91.4	68.5	248.7	H20.8.7 ~ 7	検出せず	-	
6	9/3	南岸山	19.7	25.8	32.91	6.5	12	92.0	80.5	93.8	85.1	128.1	104.7	492.7	H20.9.4 ~ 4	検出せず	-	
7	10/8		22.7	23.5	33.01	5.5	30	87.9	73.7	89.4	78.7	107.8	79.5	846.7	H20.10.9 ~ 11	検出せず	検出せず	
8	11/26		16.2	19.2	33.58	11.0	13	87.3	75.5	89.5	81.0	117.6	81.2	453.5	H20.11.28 ~ 28	検出せず	-	
9	12/3		19.6	18.4	33.61	9.0	12	86.6	81.1	88.4	82.9	122.0	95.4	421.6	H20.12.4 ~ 4	検出せず	-	
10	1/7		18.7	14.7	29.6	13.0	12	91.4	76.3	94.7	81.0	133.0	83.7	457.2	H21.1.8 ~ 8	検出せず	-	
11	2/4		23.2	13.0	33.64	11.0	12	84.0	73.1	87.7	75.1	103.8	88.1	386.3	H21.2.5 ~ 5	検出せず	-	
12	3/4		19.2	13.9	29.76	12.0	11	91.9	75.4	93.6	79.4	132.0	78.5	424.4	H21.3.4 ~ 5	検出せず	-	

付表2-1 平20年度 貝毒成分等モニタリング貝毒プランクトン調査結果〔有毒プランクトン〕(寺島)

観測機関 対馬水産業普及指導センター
検査機関 長崎県総合水産試験場

調査場所	対馬											
	寺島											
	4/18	5/14	6/23	7/23	8/26	9/24	10/27	11/26	12/18	1/27	2/18	3/26
採取月日												
水深(m)	8.7	9.7	11.2	10.2	9.8	9.8	9.4	9.8	10.5	10.0	10.3	10.2
水温(℃)	15.4	17.2	20.6	26.1	25.5	26.1	22.1	19.3	16.8	13.5	14.2	14.9
塩分	33.94	34.19	33.23	32.41	31.87	32.93	33.01	33.44	33.66	34.10	34.08	34.12
透明度(m)	8.7+	7.5	9.0	8.0	7.0	7.5	8.0	9.8+	10.5+	9.5	9.5	9.0
原因プランクトン細胞数(cells/L)												
<i>Alexandrium tamarense</i>												
<i>Alexandrium catenella</i>												
<i>Gymnodinium catenatum</i>												
<i>Dinophysis fortii</i>												
<i>Dinophysis acuminata</i>												
<i>Dinophysis mitra</i>												
<i>Dinophysis caudata</i>												

調査場所	対馬											
	辺田島											
	4/15	5/14	6/23	7/23	8/26	9/24	10/27	11/26	12/18	1/27	2/18	3/26
採取月日												
水深(m)	33.0	32.1	32.5	32.5	32.0	31.8	32.8	33.1	31.9	33.3	32.7	32.4
水温(℃)	15.6	17.7	21.3	27.7	27.3	26.0	23.0	19.6	18.4	14.4	14.1	13.9
塩分	34.02	33.93	33.04	32.12	31.51	31.52	33.06	33.46	33.83	34.09	33.93	33.40
透明度(m)	9.8	8.0	9.5	8.5	9.5	11.0	8.5	11.0	12.5	12.5	9.0	7.5
原因プランクトン細胞数(cells/L)												
<i>Alexandrium tamarense</i>												
<i>Alexandrium catenella</i>												
<i>Gymnodinium catenatum</i>					30		29		8			
<i>Dinophysis fortii</i>												
<i>Dinophysis acuminata</i>												
<i>Dinophysis mitra</i>												
<i>Dinophysis caudata</i>												

調査場所	県南											
	南串山											
	4/8	5/7	6/4	7/2	8/6	9/3	10/8	11/26	12/3	1/7	2/4	3/4
採取月日												
水深(m)	21.8	18.1	21.9	18.4	20.6	19.7	22.7	16.2	19.6	18.7	23.2	19.2
水温(℃)	14.9	18.2	20.2	23.0	28.6	25.8	23.5	19.2	18.4	14.7	13.0	9.2
塩分	33.69	33.67	33.50	31.02	32.23	32.91	33.01	33.58	33.61	29.60	33.64	29.76
透明度(m)	9.0	7.5	9.0	5.0	6.5	6.5	5.5	11.0	9.0	13.0	11.0	12.0
原因プランクトン細胞数(cells/L)												
<i>Alexandrium tamarense</i>												
<i>Alexandrium catenella</i>												
<i>Gymnodinium catenatum</i>												
<i>Dinophysis fortii</i>												
<i>Dinophysis acuminata</i>												
<i>Dinophysis mitra</i>												
<i>Dinophysis caudata</i>												

付表2-2 平成20年度 貝毒発生監視調査貝毒プランクトン調査結果(優占種)

検査機関名 長崎県総合水産試験場

調査場所	対馬												
	種名 \ 調査日	三浦湾-寺島											
		4/18	5/14	6/23	7/23	8/26	9/24	10/27	11/26	12/18	1/28	2/18	3/26
Asterionella glacialis							29						
Bacteriastrum spp.				33		12		6					
Chaetoceros spp.	2	58	57	214	75	879	6	36	385	1,190	374	13	
Coscinodiscus sp.						1							
Eucampia zodiacus				3	5		29					156	
Guinardia flaccida			2	3									
Lauderia spp.							4						
Leptocylindras spp.		81	2	8	4	4	7	14					
Nitzschia sp.	1	23		2	3	29	3	1	2			2	
Pleurosigma spp.								1					
Rhizosolenia spp.		2	2			4		1		8	2	2	
Skeletonema costatum			24	9		6					38	18	
Stephanopyxis sp.								1					
Thalassionema nitzschoides					3	62							
Thalassiosira spp.						29		6		12	2	10	
Navicula sp.		1											
Thalassiothrix spp.						2	2						
珪藻類 計	3	163	87	272	90	1,028	80	66	387	1,210	574	43	
Distephanus speculum									1				
Gymnodinium spp.		1	1										
Gyrodinium spp.				1						2			
Ceratium furca							1	1	1				
Heterocapsa rotundata										2		6	
Trodinium sp.							1		1				
Proocentrum micans							1						
Protoperidinium spp.												2	
Proocentrum triestinum	3	1	1								4	2	
微細藻類													22
その他 計	3	2	2	1	0	2	2	1	2	4	6	30	
総計	6	167	89	273	90	1,030	82	67	389	1,214	580	73	

調査場所	対馬												
	種名 \ 調査日	浅茅湾-辺田島											
		4/15	5/14	6/23	7/23	8/26	9/24	10/27	11/26	12/18	1/28	2/18	3/26
Bacteriastrum spp.				4			14		11				
Chaetoceros spp.	8	260	3	289	27	125	36			22	210	4	
Eucampia zodiacus								1		10	212		
Guinardia flaccida								2				20	
Leptocylindras spp.	10	59		12	2								
Melosira sp.								2					
Nitzschia spp.		25	2		1	1	5	7	8				
Pleurosigma spp.										2			
Rhizosolenia spp.	2						2	2			3		
Skeletonema costatum		129	4			13	4			24	24	6	
Stephanopyxis spp.											7		
Thalassionema nitzschoides								7			8		
Thalassiothrix spp.						2	3				27		
Thalassiosira sp.	1							12	1				
珪藻類 計	21	473	9	305	30	141	12	81	24	58	512	10	
Ceratium furca			5										
Distephanus speculum			2									1	
Gyrodinium sp.							1						
Mesodinium rubrum										3			
Proocentrum compressum				1									
Proocentrum triestinum											2	1	
Proocentrum dentatum							1						
Proocentrum micans								1					
Protoperidinium spp.								1	1		5		
Trodinium sp.									1				
微細藻類	7		4									6	
その他 計	7	0	11	1	0	1	2	1	2	3	7	8	
総計	28	473	20	306	30	142	14	82	25	61	519	18	

調査場所	県南												
	種名 \ 調査日	橘湾-南串山											
		4/8	5/7	6/4	7/2	8/6	9/3	10/8	11/26	12/3	1/7	2/4	3/4
Actinopterychus spp.										2			
Bacteriastrum spp.				170		63		4					
Biddulphia sp.				1		3							
Chaetoceros spp.	2	2	236	355	21	198	402	7	59	148			
Coscinodiscus spp.				5			1	1	3				
Ditylum spp.						4	2						
Eucampia zodiacus				31									
Guinardia sp.											1		
Lauderia spp.								2					
Leptocylindras spp.	9	14		35	17	10	3	3		10	47		
Navicula spp.									2				
Neodelphineis pelagica						8	11						
Nitzschia spp.	1	8		49	3	134	4	7	2	2			
Pleurosigma spp.									2	1			
Rhizosolenia spp.						8	1	1		2			
Skeletonema costatum	33	14			94	310	102				16	5	
Stephanopyxis spp.													
Thalassionema nitzschoides			1	79	10	26	130						
Thalassiosira spp.	3	1	17	6		6	205	4	7		3	2	
Thalassiothrix spp.					8	11					2		
珪藻類 計	15	58	258	731	153	781	861	29	75	165	69	8	
Akahiwo sanguinea						2							
Dictyocha fibula			1	1									
Distephanus speculum		2											
Gymnodinium sp.	1												
Gyrodinium instriatum									1				
Protoperidinium sp.							1						
Proocentrum triestinum				2									
Ceratium fusus			3	3		6							
Mesodinium rubrum									3		9		
Katodinium sp.												1	
微細藻類	2												
その他 計	3	2	4	6	0	8	1	0	4	0	9	1	
総計	18	60	272	737	153	789	882	29	79	165	78	9	